

《文しょうもんだい 2》

文しょうもんだいを やって みよう。 こた 答えを 文しょうの 中から みつけよう。

【れいだい】

つぎの 文しょうを よ 読んで、といに 答えよう。

マツは つんつんと とがった はっぱを も つ 木です。さむい 冬ふゆでも みどり色いろの はっぱを つけて いるので、おめでたい 木だと かんが 考えられました。 マツは お正月にかざる かどまつと しても つかわれて います。マツは まつぼっくりと よばれる み みを つけます。マツの み は た 食べる ことも できます。

(1) 文中の に 入る ことばを アから ウから えらぼう。

ア しかし イ だから ウ つぎに

(2) マツは どんなことに つかわれていますか。

に 入る ことばを か 書こう。

に

として つかわれる

【答え】

(1) イ

(2) お正月に かざる かどまつとして つかわ

れる

【かいせつ】

(1) マツは おめでたい 木だから お正月に つかわれて いるので、「だから」が 入ります。

(2) 文しょうの つぎの ば 場しよに か 書かれています。

マツは つんつんと とがった はっぱを も つ 木です。さむい 冬でも みどり色いろの はっぱを つけて いるので、おめでたい 木だと かんが 考えられました。 だから マツは お正月にかざる かどまつと しても つかわれて います。マツは まつぼっくりと よばれる み みを つけます。マツの み は た 食べる ことも できます。

つぎの 文しょうを 読んで、といに 答えよう。

マンボウは あたかい 海に すむ 魚です。

フグの なかまでですが、ほかの 魚と ちが

ふしぎな 形を しています。マンボウは クラ

ゲを 食べながら、ゆっくり およぎます。マン

ボウは たくさんの たまごを うみます。

、たまごの ほとんどは、ほかの 魚に

食べられて しまいます。だから、大きく そだ

つ マンボウは 少ししか いません。

(1) マンボウは どんな 魚ですか。□に 入

ことばを 書こう。

い

に

魚

(2) 文中の □に 入る ことばを アから ウ から えらぼう。

ア さいごに

イ でも

ウ だから

(3) 大きく そだつ ことが できる マンボウ

が 少ししか いないのは なぜですか。□に

入る ことばを 書こう。

マンボウの

の

は、

の

に

しまうから

つぎの 文しょうを 読んで、といに 答えよう。

五月五日は 二つの 行じが ある 日です。
一つは、たんごの せつくです。せつくとは き
せつの く切り目と して いろいろな 行じを
おこなう 日です。一月七日の 七草がゆを 食
べる 日、三月三日の ひなまつり、七月七日の
たなばたなどが そうです。

□、子どもの 日です。子どもの 日は、
「子どもを たいせつに しよう」という も
くてきで 作られました。この日は 男の 子の
いる 家では、こいのぼりを あげて おいわい
します。

(1) せつくとは どんな 日ですか。□に 入
ことばを 書こう。

□

の

□

として いろいろな

□

を

□

日

(2) 文中の □に 入る ことばを アから ウ
から えらぼう。

- ア 二つめは
- イ 三つめは
- ウ 四つめは

(3) 文しょうの ないように 合っ 入る も
のを アから ウから えらぼう。

- ア 七月七日は ひなまつりです。
- イ 子どもの 日は 女の 子の いる 家
では こいのぼりを あげて おいわいする。
- ウ 五月五日は 子どもの 日です。

□

□



つぎの 文しょうを 読んで、といに 答えよう。

マンボウは あたかい 海に すむ 魚です。

フグの なかまでですが、ほかの 魚と ちがい

ふしぎな 形を しています。マンボウは クラ

ゲを 食べながら、ゆっくり およぎます。マン

ボウは たくさんの たまごを うみます。

、たまごの ほとんどは、ほかの 魚に

食べられて しまいます。だから、大きく そだ

つ マンボウは 少ししか いません。

(1) マンボウは 何を 食べますか。

(2) 文中の □に 入る ことばを アから ウ

ア さいごに

イ でも

ウ だから

(3) 大きく そだつ ことが できる マンボウ
が 少ししか いないのは なぜですか。□に
入る ことばを 書こう。

マンボウの

は、

の

に

しまうから



つぎの 文しょうを 読んで、といに 答えよう。

五月五日は 二つの 行じがある 日です。
一つは、たんごの せつくです。せつくとは き
せつの く切り目と して いろいろな 行じを
おこなう 日です。一月七日の 七草がゆを 食
べる 日、三月三日の ひなまつり、七月七日の
たなばたなどが そうです。

□、子どもの 日です。子どもの 日は、
「子どもを たいせつに しょう」という も
くてきで 作られました。この日は 男の子の
いる 家では、こいのぼりを あげて おいわい
します。

(1) せつくとは どんな 日ですか。□に 入
ことばを 書こう。

の

として いろいろな

を

おこなう 日

(2) 文中の □に 入る ことばを アから ウ
から えらぼう。

- ア 四つめは
イ 三つめは
ウ 二つめは

(3) 文しょうの ないように 合っている も
のを アから ウから えらぼう。

- ア 子どもの 日は 女の 子の いる 家
では こいのぼりを あげて おいわいする。
イ 五月五日は 子どもの 日です。
ウ 七月七日は ひなまつりです。



つぎの 文しょうを 読んで、といに 答えよう。

さくらは 日本を だいひようする 花です。

わたしたちが ふだん よく 見るのは、ソメイ

ヨシノと いう しゅるいの さくらです。ソメ

イヨシノは ニしゅるいの さくらを まぜて

作られました。ソメイヨシノは たねを 作れ

ません。そのため、えだを ほかの さくらに

うえこむ つぎ木と いう 方ほうで ふやしま

す。ずっと むかしから ソメイヨシノは つぎ

木で 作られて います。 、わたしたち

が 見て いる さくらは 一本の 木から ふ

えた 同じ 木なのです。

(1) わたしたちが ふだん よく 見て いる

さくらは 何と いう しゅるいの さくらで

すか。

(2) ソメイヨシノは どんな 方ほうで 作られ

ますか。 ☐ に 入る ことばを 書こう。

を ほかの

に

む

と いう 方ほう

(3) 文中の ☐ に 入る ことばを アから ウ

から えらぼう。

ア しかし

イ ですから

ウ なぜなら



つぎの 文しょうを 読んで、といに 答えよう。

さくらは 日本を だいひようする 花です。

わたしたちが ふだん よく 見るのは、ソメイ

ヨシノと いう しゅるいの さくらです。ソメ

イヨシノは ニしゅるいの さくらを まぜて

作られました。ソメイヨシノは たねを 作れ

ません。そのため、えだを ほかの さくらに

うえこむ つぎ木と いう 方ほうで ふやしま

す。ずっと むかしから ソメイヨシノは つぎ

木で 作られて います。□、わたしたち

が 見て いる さくらは 一本の 木から ふ

えた 同じ 木なのです。

(1) わたしたちが ふだん よく 見て いる

さくらは 何と いう しゅるいの さくらで

すか。

(2) ソメイヨシノは どんな 方ほうで 作られ

ますか。□に入る ことばを 書こう。

を ほかの

に うえこむ

と いう 方ほう

(3) 文中の □に入る ことばを アから ウ

から えらぼう。

ア ですから

イ しかし

ウ なぜなら